

ほんがいっぱい よんでみよう！



5・6年生のための本

① 『魔女の宅急便』

まじよ たつきゅうびん
かどの えいこ さく はやしあきこ が ふくいんかんしょてん
角野栄子／作 林明子／画 福音館書店 《Fカ》

13歳になった魔女のキキは、ひとり立ちの時をむかえました。黒猫のジジをほうきにのせ、満月の夜に飛び立ったキキは、南へ向かい、高い時計台のある海辺の町・コリコに着きました。でも、町の人たちはなんだか魔女を歓迎していないみたい。そこでキキは「おとどけ屋」をはじめることになりました。



② 『森の石と空飛ぶ船』

おかだ じゅん さく かいせいしゃ
岡田 淳／作 偕成社 《Fオ》

シュンは桜若葉小学校の6年生。助けた白ネコにももらった<ひとつぶ>を飲むと、別の世界「サクラワカバ島」へ行くことができるようになった。そこには、自然を守り続けている<森の石>があった。ある日、この石をねらうロボットたちがいることに気づき、石を守るために仲間たちと立ち上がった。



ところざわ しりつところざわ と しょかん
所 沢市立所 沢図書館 2017年

③ 『テオの「ありがとう」ノート』

クロディーヌ・ル・グイック＝プリエト／著 ちよ さかた ゆきこ やく
坂田雪子／訳 けんきゅうじよ
PHP研究所 《Fル》

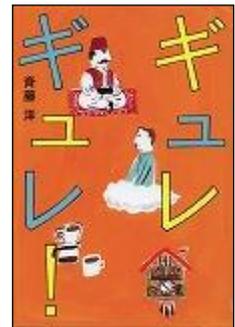
ぼくはテオ。生まれつき体が不自由で車いすにのっている。だれかに身の回りの世話をしてもらわなければ生きていけないけれど、自分だけがたくさん「ありがとう」を言うのはもういやだ！そこで、「ありがとう」と言うのをやめてみたら…。



④ 『ギユレギユレ！』

さいとうひろし さく ひぐち たつのが かいせいしゃ
斉藤洋／作 樋口たつのが 偕成社 《Fサ》

ある朝とつぜん訪ねてきたおとこは、トルコ人の商人でした。少しおかしな日本語で話すトルコ人のすすめる商品はふしぎなものばかり。空飛ぶ玄関マットに、目に見えない島…。わたしは、それらをついつい買ってしまい、身の回りはふしぎなものだらけになってしまいました。



⑤ 『さてさて、

きょうのおはなしは…』

せたていじ さいわ やく のみやまきょうこ が
瀬田貞二／再話・訳 野見山響子／画
ふくいんかんしょてん
福音館書店 《M》

むかし、まごべという人がおった。まごべがせっせとかせいでも、かみさんは一人でごっそうを食べて、まごべには食べさせない。まごべは、鼻がきくふりをして、かみさんをおどろかすことにした。(はなききまごべ) 楽しい昔話集。

⑥ 『たのしいムーミン一家』

トーベ・ヤンソン／作・絵 え やまむろしずか やく
山室静／訳 こうだんしゃ
講談社 《Fヤ》

ある日、ムーミントロールたちは、山のとっぺんで黒いぼうしを見つけた。ところがそれは、中に入ったものをおかしなすがたに変えてしまう まほうのぼうしだった。その時から、ムーミン谷にふしぎなことが…。

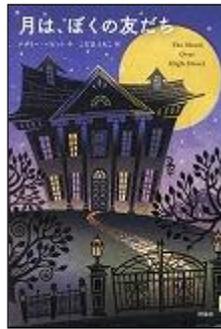
⑦『鳥のくらし図鑑』
おたぐろまり／絵・文
上田恵介／監修 借成社《48》

スズメは一年じゅう同じところに住んでいると思っ
ていませんか？ 若いスズメには、ペアでくらす季節と群れをつくってす
ごす季節があるんですよ。春・夏・秋・冬、鳥のくらしをみてみ
ましょう。

⑨『月は、ぼくの友だち』

ナタリー・バビット／作 こだまともこ／訳 評論社《Fバ》

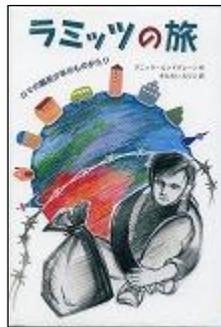
もしも、夢をあきらめれば大金持ちになれると
言われたら、君ならどうする？ おばあちゃんと
二人きりで暮らしてきたジョーは、天文学者にな
りたいと思っていた。でも、ある日、偶然出会っ
た億万長者が、ジョーを養子にして会社を継が
せたいと言ってきたんだ。



⑩『ラミッツの旅』

グニツラ・ルンドグレーン／作 きただいえりこ／訳 さ・え・ら書房《Fル》

ロマ人のラミッツ一家は、難民として長年ドイツ
で暮らしていた。だが、永住許可申請が却下され、
母国のコソボに帰らなければならなくなった。母国
は戦争で破壊されており、お父さんは強盗に連れ去
られてしまった。どこか別の国へ逃げなければ、命
も危ない。行き先のわからない長い旅がはじまっ
た。



⑧『恐竜は今も生きている』
富田京一／著 下田昌克／絵
ポプラ社《45》

恐竜は、大むかしに生きていた
爬虫類のなかま。でも、ヘビやトカ
ゲとはちがって、恐竜の体は
羽毛におおわれていた。恐竜が
進化して、今も生き残っている生き
物って何だと思う？ 恐竜のヒミ
ツをさぐってみよう！

⑪『ミス・ピアンカ くらやみ城の冒険』

マージェリー・シャープ／作 渡辺茂男／訳 岩波書店《Fシ》

優雅で美しい白ねずみのミス・ピアンカ、勇
かな船乗りねずみのニルス、そして家ねずみ
のバーナード。この3匹が、がけの上にそびえ
たつ「くらやみ城」から詩人をすくい出すとい
う危険な仕事を引き受けた。さて、3匹の運命
は？



⑫『「走る」のなぞをさぐる』

高野進／著 少年写真新聞社《78》

人はなぜ走るのだろう。「歩く」
と「走る」は、どちらがうのだろう。
短きよりがとくいな人と、長きよ
りがとくいな人は、何がちがうのだ
ろう。「走る」のなぞをといて、正し
く走れるようになるろう！

⑬『おしりをふく話』

斎藤たま／文 なかのひろたか／絵 福音館書店《38》

トイレにはトイレットペーパー
がおいであります。でも、むかしは
新聞紙やフキの葉、トウモロコシの
皮、それに割りばしくらいの幅の木
でおしりをぬぐっていたんです
て！

⑭『勇気の花がひらくとき』

梯久美子／文 フレーベル館《72》

アンパンマンは、自分の顔を
食べさせてあげると力が出なく
なってしまいます。そんな「弱
い」ヒーローには、戦争を経験し
てたどりついた作者の信念がこ
められています。

⑮『ぼくの先生は東京湾』

中村征夫／写真・文 フレーベル館《45》

東京湾には、たくさんの生き物
がくらしています。ところが、赤潮
という現象によって、多くの生き
物の危機にさらされています。その
原因は、私たちの暮らしにあるの
です。